

# 猿 新 聞

編集・発行  
山村 準  
tel:0595-63-1725  
Email  
jyun.y@asint.jp

## 野生鳥獣に 負けられない集落づくり

矢川区長

見邨 光生

まずは、有害鳥獣の防護対策に携わっていたいています関係者の皆さんに、区長の立場から紙面をお借りしてお礼申し上げます。

とりわけ、一年を通して見回っていたいています、モンキードック倶楽部の畠山さんや、毎月、鳥獣対策関連情報を提供してくださっています「猿新聞」編集者の山村さんには、改めて敬意を表させていただきます。

さて、かれこれ8年程前になりますが、京都府の夜久野町（現在は福知山市夜久野町）の方から、町をあげての有害鳥獣対策の話をお聞きしました。

必死に取り組んでいるといった内容だったと記憶しているのですが、今思うと、防護対策で最も重要な「効果的に囲う」と「集落ぐるみで対応する」の二つを実践されていた訳です。

私どもの近辺は、畠山さんのお陰で、平成22年6月2日以降この1月末まで、973日間猿と出会っていません。

しかし猪や鹿は、折角張ってあるネットを避けて、侵入して来ます。

「効果的に囲う」の典型的な見本が私の前の畑で見えました。下の写真は、ネットを張る前3〜4頭の鹿が2日おきぐらにきていた時の獣道の写真です。

次の一枚は、昨年11月下旬頃に、あまり頑丈に張ってあると言いついてネットの設置後、約二ヶ月経ってからの同じ所から写したもので、獣道が無くなっているのがお分かりいただけると思います。

また、年に700頭以上の猪や鹿を駆除しています。高価な黒豆を守るため、

ならない課題だと思えます。これからも、対象動物や地形によって対応方法はかなり変わりますが、前の畑で見られますように、効果のある方法での自己管理をお願いしていきます。

(写真提供 見邨光生)



## 棲み分けを考える 広葉樹林再生

近年、私たちの生活と野生動物との距離が近くなり、野生動物による威嚇や家屋侵入などのトラブルが生じています。シカやイノシシ、サルなどの野生動物による農作物被害が依然として続き、耕作放棄地が拡大しています。

このため、従来の被害管理と合わせて、人と野生動物が棲み分けのできる森づくりが求められています。

住み分けを進める一つの方法として、野生動物が近づきづらい環境を構築することがあげられます。集落を取り囲む森林を一定の奥行きで間伐、下刈りを行い見通しを良くし、（バッファゾーン）被害を未然に防ぐ環境づくりです。

次に、生息地の環境を劣化させたのは私たち人間であるという反省を込めて、野生動物の餌場となる広葉樹林の再生を行はなければなりません。

広葉樹林は、かつては薪炭材として20〜30年の短い周期で伐採され、萌芽（芽吹き）更新にコストをかけることなく再生していましたが、燃料革命後は薪炭材としての利用が減

少し放置され高齢化し大経化（大きく成りすぎ）しています。

樹木は大経化すると、芽吹きが悪くなります。このままでは多くの高齢林は伐採後の天然更新が危ぶまれます。

広葉樹林再生は、獣害対策と併せて考えなければならぬ大きな課題だと思っています。

棲み分けを考えるとき、個体数調整は避けて通れない道だと思っています。

近年、害獣の個体数は予想以上に増加しています。個体数の増えすぎは人間は無論のこと、野生動物全体に大きな悪影響を及ぼすことが考えられます。適正な頭数を維持するための調整はどうしても必要だと思っています。

個体調整も見方をかえて考えると、野生の保護につながると思います。

今後は、鳥獣保護区の縮小や狩猟規制緩和など、狩猟の適正化も調整する必要があると思います。

朝日新聞によれば、30都道府県が6年間に廃止・縮小した保護区は、東京23区や琵琶湖の広さを上回る約7万2千haにのぼるといわれています。

取材の録画映像と現地の声、コメンテーターの説明を交えた30分。さすがNHK！

充実した番組でした。

### ハンターの 絶滅

『猟師が高齢化し減少する中で、生息数が爆発的に増加、改めて野生動物の管理のあり方が問われている。狩猟を通じて野生動物とどう共存し、地域の資源としていかに活用するのか。狩猟文化を見つめ直し、継承しようとする各地での模索を伝える』という特番でした。

に増加、改めて野生動物の管理のあり方が問われている。狩猟を通じて野生動物とどう共存し、地域の資源としていかに活用するのか。狩猟文化を見つめ直し、継承しようとする各地での模索を伝える』という特番でした。

狩友会は、絶滅危惧団体ですから、絶滅危惧種ですよ！

狩猟は免許制で1970年代に50万人いた免許者が、現在は20万人を切っているそうです。そのため、野生の動物が増えすぎて色々な問題が出てきています。

人間と自然とのバランスが崩れた大きな要因はハンターの減少。増え続ける野生動物とどう向き合うのか。シカの増加で植物が食べ尽くされ、表土が流出。貴重な植物まで失われています。一方でシカの好まない植物だけが生き茂るなど、自然のバランスが崩れ始めています。

自然と共存する方法として狩猟の重要性が高まってきています。

新人ハンターは、動物の駆除を担わされることに複雑な思いを抱く人も少なくありません。だが、「数減らすために撃たなきゃならない！」

人間が森を変えたことによって野生動物は昔と比べて確実に増えていて、農作物などに深刻な被害をもたらしている。人間が手を入れた自然のだから、昔から人間がしてきた自然との関わりを放棄してはいけません。

### どう守る狩猟文化

野生動物を山の恵みと考える生きた糧とする、狩猟の文化。この文化を現代の社会に取り戻そうという取り組みが始まっています。

狩猟文化を地域に復活させるためには産業として成り立たせる必要があります。4年前岐阜県では狩猟を中心とした町おこしを行う団体「猪鹿庁」を立ち上げ、食肉の捕獲から販売までを全て地域で担う狩猟の6次産業化を目指しています。

最後に、人間と動物の共存と、すばらしい関係の再構築を目指す。

「農業の周りで何が起きているか？」いま、メディアが提起しています。

### サルの出没状況

名張A・B群

#### 2月 サルの動向

獣害対策

指南員報告

2月に入りA群は青蓮寺、比奈知ダム中心に生息域全域を活動していますが、B群は寒さと積雪の影響があり同じ地域（大和龍口、西谷、三本松）に停留することが多く移動距離が少なくなっています。

本月は厳しい寒さと積雪の影響で、比較的温暖な日当りのよい山の斜面や民家の屋根の上などによく現れ、大根や白菜など畑の冬野菜、かんきつ類（きんかん等）つるし柿、家に干してある玉葱を食べているのを目撃することが多く、また家屋ならびに農作業小屋に侵入する被害が特に多く見受けられました。

